

広島文学資料室サテライト展示

「被爆建物とヒロシマの文学」展示資料リスト

作家名－被爆建物の現在の名称（被爆時の名称）

大田洋子－広島逡信病院旧外来棟（広島逡信病院外来棟）

『屍の街』大田洋子／著 中央公論社 1948年

『屍の街』大田洋子／著 冬芽書房 1950年

大庭みな子－本川小学校平和資料館（本川国民学校）

『野草の夢』大庭みな子／著 講談社 1973年（「地獄の配膳」収録）

『浦島草』大庭みな子／著 講談社 1977年

『虹の橋づめ』大庭みな子／著 朝日新聞社 1989年（「二百十日の頃」収録）

竹西寛子－広島市郷土資料館（宇品陸軍糧秣支廠）、
旧日本通運出汐倉庫1～4号棟（広島陸軍被服支廠）

『道づれのない旅』竹西寛子／著 新潮社 1970年（「被爆前後」収録）

『管絃祭』竹西寛子／著 新潮社 1978年

『愛するという言葉』竹西寛子／著 新潮社 1980年（「道」収録）

峠三吉－旧日本通運出汐倉庫1～4号棟（広島陸軍被服支廠）

『峠三吉作品集』下 峠三吉／著 青木書店 1975年（「メモ－覚え書－感想」収録）

『原爆詩集』（復刻版）峠三吉／著〔峠三吉没後30年記念事業委員会〕 1983年

『峠三吉被爆日記』池田正彦・松尾雅嗣／編 広島大学平和科学研究センター 2004年

草稿「負傷者収容所」（複製）峠三吉／著 ペン書

原民喜－東照宮（東照宮）

『夏の花』（ざくろ文庫）原民喜／著 能楽書林 1949年

「雲雀」第2号 広島花幻忌の会事務局 2002年

（「原爆被災時のノート」（写真版と解説）掲載）